

MS&C

株式会社 MS & Consulting

2025年2月期 第3四半期

決算説明資料

✓ 業績

- 売上収益 730百万円 前年同四半期比18.8%増
- 営業利益 94百万円 前年同四半期比225.5%増
※その他の営業損益の影響を除いた営業利益は前年同四半期比255.1%増

✓ 方針進捗

- MSRは今期の活動方針に「MSRの再構築」を掲げ取引拡大に傾注してきたことが功を奏し、前年同四半期比 通常調査28.0%増、海外関連調査39.2%増
 - 前年同四半期比 MSRの売上収益：29.7%増、受注：0.8%減
- 人的投資及びIT投資の継続により、労務費・減価償却費が上昇

✓ 業績予想

- 2025年2月期業績予想は概ね達成を見込む

連結P/L(四半期比)

単位：百万円	2025年2月期 第3四半期	2024年2月期 第3四半期	前年 同四半期差異	前年 同四半期比	2025年2月期 第2四半期	前四半期 差異	前四半期 比
売上収益	730	615	115	18.8%	682	48	7.0%
売上原価	△ 478	△ 433	△ 45	10.3%	△ 449	△ 29	6.4%
売上総利益	253	182	71	38.9%	234	19	8.1%
販管費	△ 163	△ 157	△ 6	3.9%	△ 156	△ 7	4.4%
その他の営業損益	4	4	1	14.0%	△ 1	6	—
営業利益	94	29	65	225.5%	76	18	23.2%
EBITDA	121	51	70	138.4%	102	18	18.0%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	59	20	39	198.0%	49	9	19.0%

✓ 前年同四半期比、売上収益18.8%増、売上総利益38.9%増、営業利益225.5%増

- 売上収益は「MSRの再構築」を方針に掲げ取引拡大を図ったことでMSRは増加、SaaSも増加、コンサルその他は減少(増減要因はp4参照)
- 売上原価10.3%増、販管費3.9%増、以下が主な要因

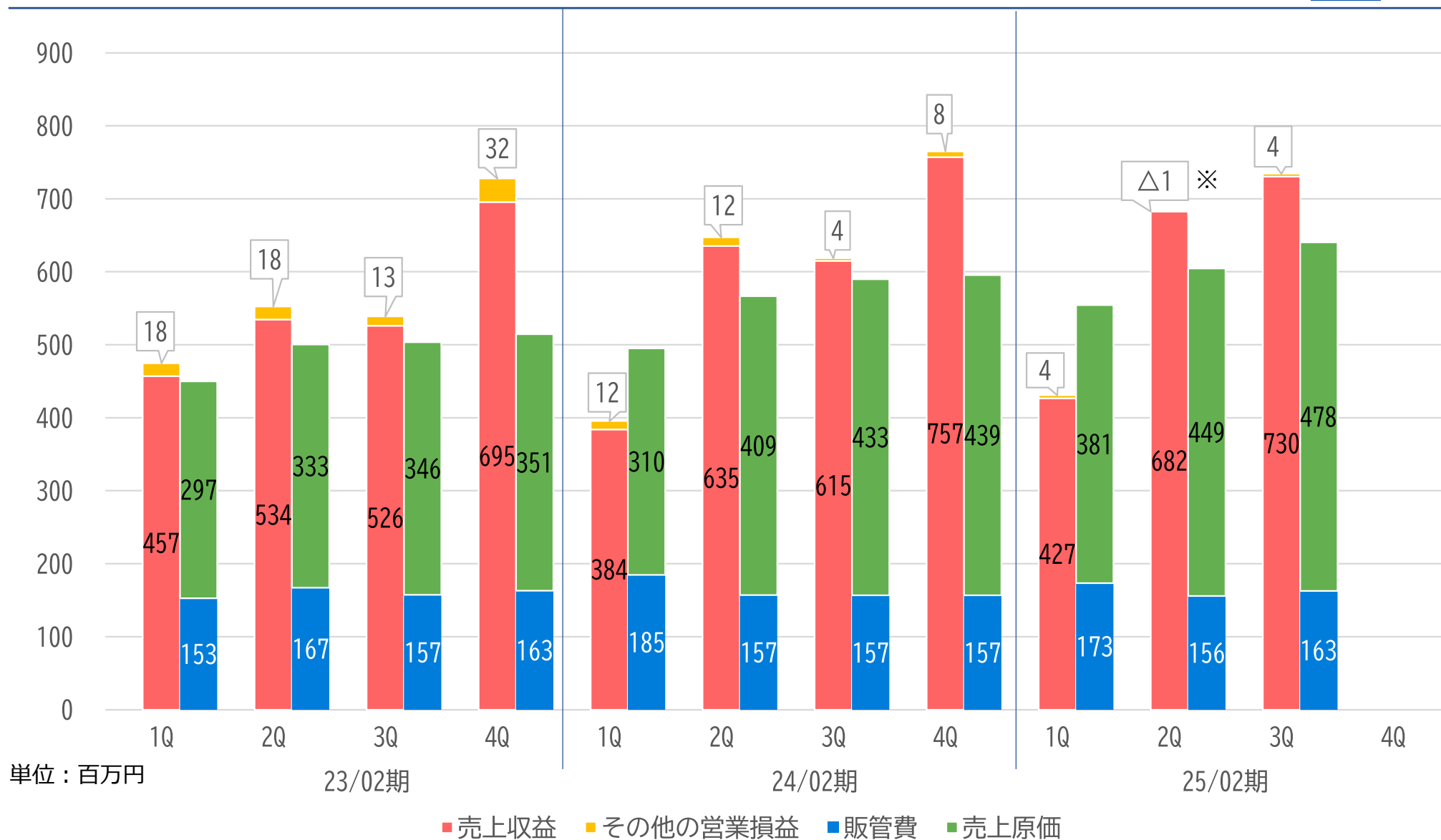
【売上原価】

- 人員増及び昇給に伴う労務費の増加、IT関連投資の拡大に伴う賃借料・減価償却費の増加 (+)
- 調査数増加に伴うモニター謝礼の増加 (+)

【販管費】

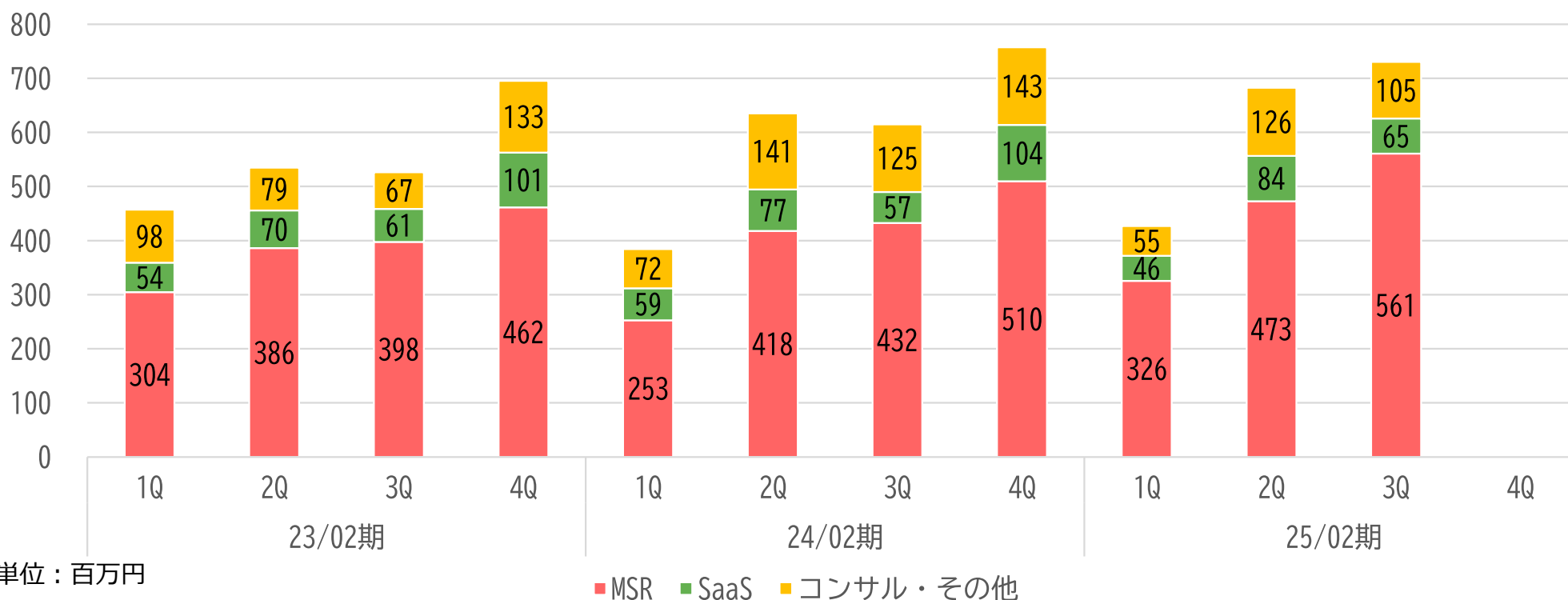
- 昇給に伴う人件費の増加、旅費交通費・賃借料の増加 (+)
- 広告宣伝費の抑制 (-)

連結P/L(四半期推移)



※主に為替差損による

連結売上収益の内訳(四半期推移)



✓ MSRは前年同四半期比29.7%増

- MSRは今期の活動方針に「MSRの再構築」を掲げ取引拡大に傾注してきたことが功を奏し、前年同四半期比 通常調査28.0%増、海外関連調査39.2%増、送客+調査型サービス14.9%増

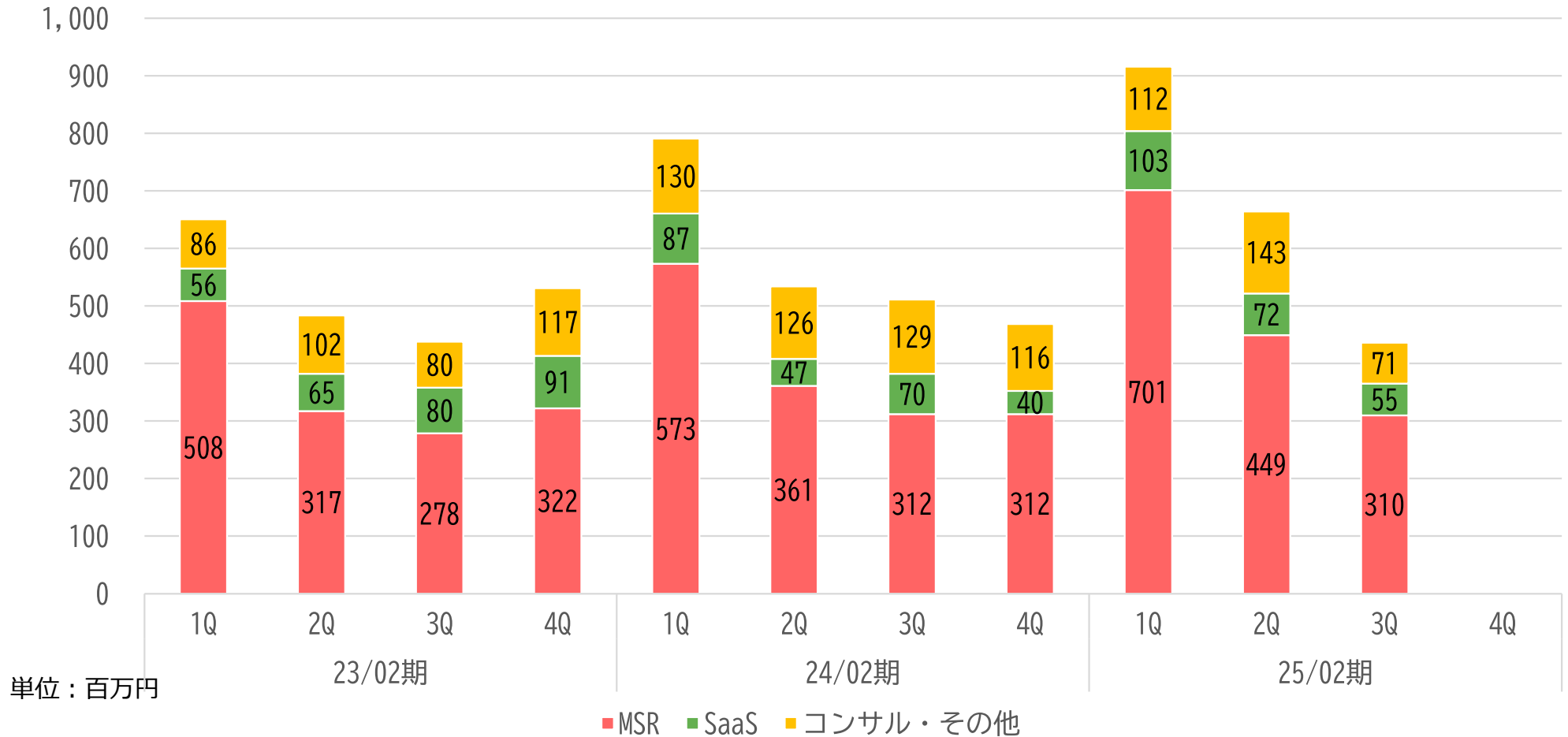
✓ SaaSは前年同四半期比12.8%増

- tenpoketチームアンケートが前年同四半期比93.1%増と牽引

✓ コンサルその他は前年同四半期比16.1%減

- 事業再構築補助金の採択率が想定以上に低かったこと及び業務改善助成金の審査遅延が起こっていること等により関連売上が減少
- 通常コンサルは増強した人員の戦力化により前年同四半期比32.0%増、3Q累計でも前年同期比5.0%増

国内における受注高の推移



- ✓ 受注高は3Q累計で前年同期比9.8%増(MSR 17.1%増、SaaS 13.0%増、コンサルその他 15.5%減)
- ✓ 前年同四半期比は14.7%減(MSR 0.8%減、SaaS 20.8%減、コンサルその他 44.9%減)
 - MSR：継続案件の受注が2Qに前倒しされた影響
 - SaaS、コンサルその他：補助金・助成金関連受注の減少

連結P/L(前年同期比、予想進捗率)

単位：百万円	2025年2月期 第3四半期累計 (実績)	2024年2月期 第3四半期累計 (実績)	前期 差異	前期 比	2025年2月期 連結会計年度 (予想)	予想 差異	予想 進捗率
売上収益	1,839	1,634	205	12.6%	2,729	△ 890	67.4%
売上原価	△ 1,307	△ 1,153	△ 155	13.4%	—	—	—
売上総利益	532	482	50	10.5%	—	—	—
販管費	△ 492	△ 498	6	-1.3%	—	—	—
その他の営業損益	7	27	△ 20	-74.8%	—	—	—
営業利益	47	10	37	358.0%	271	△ 224	17.3%
EBITDA	127	75	52	69.8%	—	—	—
親会社の所有者に帰属する 当期利益	35	7	28	404.6%	206	△ 171	17.0%

✓ 2025年2月期業績予想は概ね達成の見込み

- 通期業績予想に対する売上収益進捗率は67.4%、
3Qの実績に4Q期初受注残高(国内)を含めた通期業績予想に対する売上収益充足率は84.7%
- MSRは堅調に推移、tenpoketチームアンケート及び通常コンサルの受注増を4Qに見込む

重点活動方針の進捗 | 1. MSRの再構築

① コロナ後のニーズ変化を捉えたマーケティングと提案による過去客との取引復活

✓ 3Q累計クライアント数：849社(内、復活56社)

② 海外関連調査の拡大

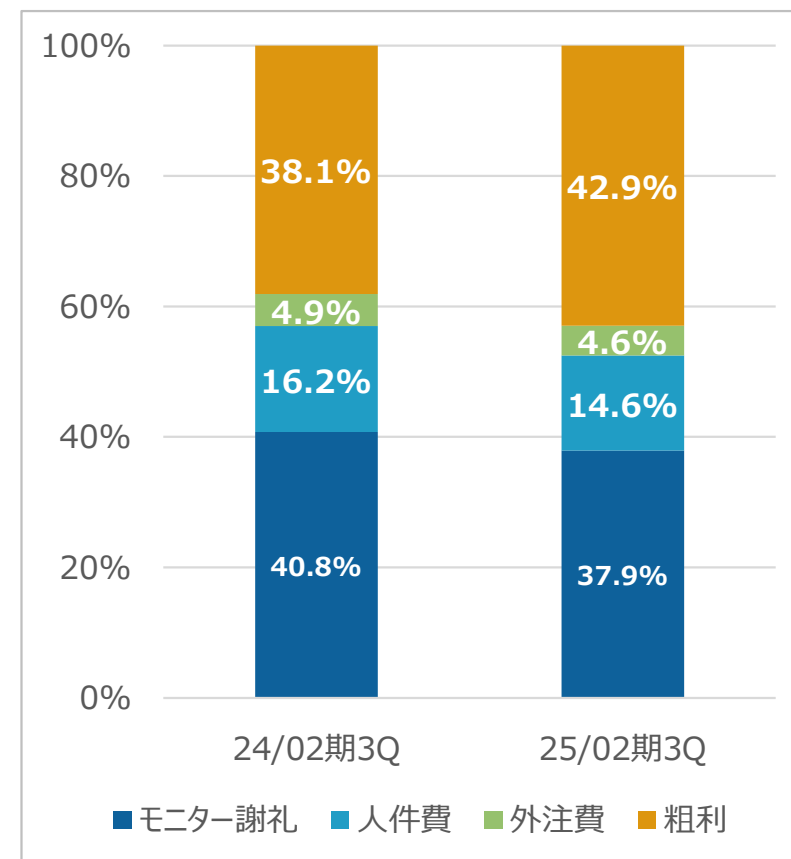
✓ 海外関連調査売上

- 3Q 93百万円(前年同四半期比39.2%増)
- 3Q累計 224百万円(前年同期比31.6%増)

③ 顧客との交渉による販売単価の向上 モニターへの調査参加率向上による製造原価の低減

- ✓ 各種生産性向上の取り組みにより粗利率が4.9ポイント改善
 - モニター向けサイトリニューアルで調査参加ページ閲覧率が10%超改善
モニター謝礼が2.9ポイント減
 - AI活用によるレポートチェックの負担軽減
人件費が1.7ポイント減
- ✓ 顧客との交渉による販売単価の向上
 - 販売単価は前年同期比7.9%増
- ✓ モニターへの調査参加率向上のさらなる取り組み
 - LINEとのID連携によるメッセージ配信機能を活用

MSRのコスト構造



※「重点活動方針」は、2024年4月8日開示の「2024年2月期決算説明資料」を参照

① 補助金・助成金関連

- ✓ 3Q累計においても補助金・助成金関連売上が減少
 - 事業再構築補助金の採択率が想定以上に低下
 - 業務改善助成金の審査遅延によるずれ
- ✓ ラインナップを拡充したことによる売上増があるものの全体としてはマイナス
- ✓ 来期の補助金・助成金の予算発表後、速やかな営業及び支援活動に移るための準備
 - SNS発信によるマーケティングの強化
 - LINE拡張機能を活用した顧客とのコミュニケーション強化

② HR分野

- ✓ 外食業界における求職者の確保に苦戦
サービス業全体に対象を広げて求職者の確保を進める
- ✓ 採用コンサルにおいては堅調に推移

③ LBO（エルボ） ※LINEを利用した集客支援サービス

- ✓ 支援事例が増えて受注が拡大中
 - 営業メンバーを追加し、拡販体制を構築
 - 店舗単位での導入となるため、当社の新たなストック収益化を目指す

資 産

単位：百万円	2025年2月期	2024年2月期
	第3四半期 (2024年11月30日)	連結会計年度 (2024年2月29日)
現金及び 現金同等物	547	330
営業債権 及びその他の債権	455	541
流動資産合計	1,066	953
のれん	2,224	2,224
非流動資産合計	2,679	2,597
資産合計	3,745	3,550

負債及び資本

単位：百万円	2025年2月期	2024年2月期
	第3四半期 (2024年11月30日)	連結会計年度 (2024年2月29日)
社債及び借入金	168	150
営業債務 及びその他の債務	592	501
流動負債合計	826	706
非流動負債合計	58	18
資本金	78	75
資本剰余金	2,041	2,038
自己株式	-359	-365
利益剰余金	1,174	1,139
資本合計	2,861	2,826
負債及び資本合計	3,745	3,550

- ✓ 3Q累計の営業CF314百万円、投資CF△101百万円、財務CF1百万円により、現金及び現金同等物の残高は前期末から217百万円増加 ※3QのCF増減については、次ページをご参照ください
- ✓ 3Q末のコミットメントライン契約に基づく短期借入の残高は150百万円

単位：百万円	2025年2月期 第3四半期	2024年2月期 第3四半期	前年 同四半期差異	前年 同四半期比	2025年2月期 第2四半期	前四半期 差異	前四半期 比
営業活動によるキャッシュ・フロー	139	104	35	33.7%	△ 3	142	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 31	△ 53	21	—	△ 32	1	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 86	7	△ 93	—	138	△ 223	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	547	345	202	58.5%	522	25	4.8%

✓ 営業活動によるキャッシュ・フロー

- 税引前四半期利益93百万円の計上、営業債権の残高が146百万円減少、営業債務の残高が37百万円増加等したため、前年同四半期比35百万円収入増となり、当四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは139百万円の収入

✓ 投資活動によるキャッシュ・フロー

- システム開発費用の支出31百万円、投資有価証券の取得による支出(前年20百万円)の未発生等により、前年同四半期比21百万円の支出減となり、当四半期の投資活動によるキャッシュ・フローは31百万円の支出

✓ 財務活動によるキャッシュ・フロー

- 短期借入金78百万円の減少、リース負債の返済8百万円等により、前年同四半期比93百万円支出増となり、当四半期の財務活動によるキャッシュ・フローは86百万円の支出

免責事項

- 本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的として、株式会社MS&Consulting（以下「当社」という。）が作成したものであり、いかなる有価証券の売買の勧誘を目的したものではありません。
- 本資料に含まれる当社以外に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しておりますが、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っており、またこれを保証するものではありません。
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身の責任とご判断においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。